

草のみどり

Kusa no Midori

2022.

1

Special feature

FRONT LINE 法学部

巻末特集

オンラインキャンパスライフ体験会

本号に
生協利用券を
同封します

特集

- 2 FRONT LiNE 法学部
52 オンラインキャンパスライフ体験会

巻頭のことば

理工学部教授 福永 拓郎

学部情報

- 8 法学部/夢をカタチに! ~私の「やる気」
法学部国際企業関係法学科2年 宇藤 梨乃

法学部だより
法学部事務室 小池 ゆり

- 10 経済学部/経済学部から世界をひらく
経済学部国際経済学科3年 室田 真吾

経済学部だより
経済学部事務室 境 真梨子

- 12 商学部/私の商学部LIFE2021
商学部会計学科2年 関山 舞美
商学部経営学科2年 船田 恵莉

商学部だより
商学部事務室 山内 奎河

- 14 理工学部/理工の最先端研究に迫る!
理工学研究科都市人間環境学専攻博士課程前期課程2年
佐倉 拓歩

理工学部だより
理工学部事務室 穴澤 圭祐

- 16 文学部/文学部生のリアルな!学生生活
文学部人文社会学科英語文学文化専攻3年 杉本 麻都子

文学部だより
文学部事務室 無田 絢香

- 18 総合政策学部/プロジェクト奨学生の眼
総合政策学部国際政策文化学科4年 梅沢 有里沙
総合政策学部教授 篠木 幹子

総合政策学部だより
総合政策学部国際政策文化学科2年 大葉 拓斗

- 20 国際経営学部/世界を動かす人になろう
国際経営学部国際経営学科2年 坂田 優奈

国際経営学部だより
国際経営学部准教授 中村 大輔

- 22 国際情報学部/テクノロジーと法の未来へ
国際情報学部国際情報学科3年 王 安理

国際情報学部だより
国際情報学部事務室 小山 望

- 24 わたしたちのゼミへようこそ
文学部人文社会学科社会情報学専攻3年 斉藤 里奈
文学部教授 辻 泉

- 26 まるちあぐる
総合政策学部教授 櫻井 秀子

- 28 GO GLOBAL 中央から世界へ。
国際センター NEWS
外国語強化プログラム運営委員長(商学部教授) 福西 由実子

- 30 キャリアインフォメーション

法学部法律学科4年 植竹 史雄
文学部人文社会学科4年 梶原 舞佑子
総合政策学部政策科学科4年 濱中 勇輔
経済学部経済学科4年 平川 雄樹
商学部会計学科4年 吉田 実句

- 34 OB・OGからのMessages
公益社団法人 全国公営住宅火災共済機構 坂口 真帆

- 36 中スポPLUS
相撲部

- 39 学友会 文化系サークル紹介
考古学研究会

- 40 ボランティア通信
法学部政治学科3年 阿佐美 有沙

- 42 学生部掲示板

- 44 白門祭奮闘記
白門祭実行委員会 事務局長 鹿倉 遥
白門祭実行委員会 事務局長 八木 萌花
理工白門祭実行委員会 委員長 谷岡 恵那
iTL学祭実行委員会 委員長 藤山 勇愛美

- 46 CAMPUS NEWS

- 50 FUBOREN NEWS

オススメ書籍紹介

草のみどり 2022年1月号(通巻第329号) / 2022年1月1日発行

発行 中央大学父母連絡会
編集 『草のみどり』編集委員会
制作 株式会社アズディップ

[本誌に関するお問い合わせ]
〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1
中央大学父母連絡会事務局 TEL:042-674-2161

国際経営学部



Vol.11

新型コロナウイルスを経て 見つけた挑戦できる場所

国際経営学部国際経営学科2年
私立帝京大学高等学校(東京都)出身

坂田 優奈



いました。ですから、新型コロナウイルス感染症によって、新たな友人作りをはじめ、さまざまな活動が制限される中で月日が容赦なく進んでいくことに、このまま大学生

活が終わってしまうのかという焦りを感じました。それと同時に、コロナ禍だからこそ挑戦できる何かを見つけようという思いが芽生え始めました。

国際経営学部の特徴の一つとして、学生と教員、職員の方々との距離が近いことが挙げられます。授業を担当して下さる教授の方々はもちろん、事務室の職員の方々も親身になって相談に乗ってください、学生一人ひとりと向き合い、さまざまな手助けをして下さいます。

たとえば、国際経営学部では1年次に入門演習という科目があります。これは2年次の秋学期から始まるゼミの前身で、レポートの書き方をはじめとした大学の教育課程につながる基礎を勉強するものです。担当の教授がアカデミックアドバイザーと

広げる機会を作ってくれたものの、オンラインとは違う友人作りの難しさを感じたことを覚えています。

私は大学という場を勉学に励むだけでなく自分が成長できる場にしたと思う



晴れた日の学校

新年明けましておめでとございます。早いもので新型コロナウイルスの感染拡大から約2年が経過し、一瞬にして変わった私たちの日常は今では当たり前のようになってしまうました。状況が日々目まぐるしく変化していく中で、2021年は皆さまにとってどのような年になったでしょうか。私自身の2021年を振り返ると、「挑戦」といったワードが浮かびます。ここでは、私のコロナ禍における国際経営学部生としての2年間の軌跡と、国際経営学部の魅力についてお話しさせていただきます。

私は2020年4月に中央大学国際経営学部2期生として入学しました。新しい環境で新しい仲間と勉学を共にできるというワクワク感から一変、新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックによって夢のキャンパスライフは泡と化し、完全オンライン授業に変更されました。国際経営学部の1期生が中心となって「welcome 2nd」というオンライン上で交友関係を

なり、学生の学校生活をサポートしてください。私は、多国籍企業を主に研究されている咲川教授の入門演習を選択しました。対面の授業でキャンパスを訪れた際には、事務室の職員の方々との交流の場を設けていただき、学業以外の面でも支えていただいたことを今でも覚えています。

また、国際経営学部は学生が新しいことに挑戦しやすい場所だと言えます。チャレンジ精神旺盛な学生も多いです。2019年に新設された学部ということもあり、学部を自分たちでより良くしていくという起業家マインドを持つ学生が多いという印象を受けました。

その一例が、学生が中心となって設立した団体の活動です。そのすべては、学生のやりたいという気持ちを考慮した教員や職員の方々のご尽力のうえで成り立っています。実は私も、2021年にPCUBEDというビジョン団体を設立しました。PCUBEDの目的は、国際経営学部の学



イベントで司会を務める筆者



PCUBEDイベントの様子

生と実社会をつなぐ場を作ること。授業で学んだ知識をアウトプットできる機会が必要だという友人の一言がきっかけで設立しました。これまでに、中央大学内のビジネスコンテストの優勝者・オンラインビジネスコンテストの優秀賞受賞者と、国際経営学部の木村剛准教授を招いての講演会の開催や、各種イベントの実施といった成果を挙げています。

PCUBEDのほかにも、国際経営学部のメインイベントである企業訪問をサポートする団体や、異文化交流の機会を設ける団体、国際経営学部の活動を発信する広報団体などもあります。それぞれの学生が新しいことにチャレンジしようという向上心を持ち、それを全力でサポートしてくれる環境が整っている、そここそが国際経営学部の進化の理由だと考えます。

新型コロナウイルス感染症によって世界がものすごいスピードで変化しています。簡単に海外に渡航できないなど、私たちの行動は制限ばかりされているように感じるかもしれません。ですが、それによって自分の生活を振り返る機会ができ、今の自分ができることに挑戦しようと思えるようになりました。今後も大学で友人と勉学に励み、新しいことに挑戦できる環境に感謝しながら、日々前進していきたいと思っています。

最後になりましたが、この場をお借りして、両親をはじめこれまで私を支えてくださった方々にお礼申し上げます。

2022年も皆さまにとっても素敵な1年になりますようお願いいたします。

国際経営学部だより

臨機応変に考え、行動できる逞しさ

国際経営学部准教授 なかむら だいすけ 中村 大輔



こんにちは。経済学領域を担当しております国際経営学部の中村です。経済学入門、ミクロ経済学、経済地理学、国際経営立地論、入門演習、専門演習Ⅰ～Ⅲを英語で開講しています。次年度は卒業を目前とした専門演習が新たに2つ加わります。一連の専門演習では、経済立地論の分析力の深化、そして本学と「連携協力に関する基本協定」が締結されている多摩市との「地域自治形成に向けた住民意識調査及び住民参画開拓のための共同研究」を手掛けています。本事業はもうすぐ3年目に入ります。今般の社会状況下、さまざまな制約の中に置かれながら、行政担当者の方々とゼミ生とで知恵を寄せ合い、非接触形でのオンライン型ワークショップを開催するなど、取り組みを止めることなく運営しています。ゼミメンバー作成の資料や素材は、常にわかりやすく親しみに富む完成度の高さです。

これまでは経験のなかったオンライン型授業から得た知識や工夫が伝わってきます。通常の授業科目においても、履修者の皆さんの多くは、受講形態に左右されることなくわからない点をその都度質問し、ディスカッションに積極的に参画しておられます。数カ月前の新年度ガイダンスでは、「対面でお目にかかる日を心待ちにしています」と前年度パソコンの画面越しに伝え合った履修者の方々が、「お互い大変でしたが乗り越えましたね」と満面の笑みで立ち寄ってくださいました。どのような状況であっても、臨機応変に考え、行動できる学生の皆さんのたくましさを目の当たりにし、将来のさまざまな舞台での活躍の場を思い浮かべるとともに、その活躍の範囲を卒業までに無理なく引き出し得る教育環境を丁寧に整えてまいります。皆さまにおかれましては何とぞご自愛ください。